

# 千葉県 NEWS

CHIBA CANCER CENTER NEWS

## がんセンターニュース



第27号  
平成26年6月10日発行  
発行:千葉県がんセンター

### 理念

心と体にやさしく、希望の持てるがん医療

私たちは、一人でも多くの千葉県民に、  
質の高いがん治療を提供します。

## 患者・家族の想いを大切に

病院長 矢島 鉄也



「がん」は他人事ではありません。日本人の2人に1人ががんになるという時代です。自分が「がん」にならなくても、家族や親戚、友人や近所の人「がん」になる可能性は高いのです。そうは言っても、「がん」と診断されるのは衝撃的なことです。脳に大きなストレスをもたらします。「頭の中が真っ白になった」、「まさか自分ががんであるはずがない」、「何かの間違いではないか」、「告知を受けた後、どうやって家に帰ったのか思い出せない」という人もたくさんいます。病名を耳にした後の数日間は認めたくない気持ちが強くなる人もいます。「なぜ、自分だけがこんな目に遭わなければならないのか」、「私が何か悪いことをしたのか」など、怒りを感じることもあるかもしれません。また「食生活が悪かったのではないか」などと、自分を責める人もいます。実はこうした感情は、誰にでも起こることなのです。これは、大きな衝撃から自分の脳を守ることで進化してきた人間としてのごく自然な反応なのです。

そんな時には、無理に頑張ったり、平静を装ったりする必要はありません。誰とも話したくない時間や、一日中布団をかぶって寝ている日があってもいいのです。大きな衝撃を受けながらも、今あなたが生きつづけていることが、かけがえのないことなのです。多くのがんの原因は解明されておらず、がんになりやすい性格なども証明されていません。がんになったのは、決してあなたのせいではないのです。

心配を掛けたくないという思いから、自分の気持ちを話すことをためらう方もいますが、落ち着いた時に、大切な人と話をされてはいかがでしょうか。人はコミュニケーションが大切なのです。人と人との会話の中で人は生きているのです。家族や親しい友人などにつらい気持ちや不安を吐き出すことで、脳のストレスが減り、落ち込んでいる気持ちが軽くなるのです。涙を流してもいいのです。大事な人にこそ、まずは話してみることが大切なのです。身近な人に話すことが難しいときには、病院のスタッフに話を聞いてもらうのも方法の一つです。つらい気持ちや不安を吐き出すことで、脳の負担が減り、落ち込んでいる気持ちが軽くなります。

医学の進歩によってがんの治療成績は向上しています。「がん＝死」ではありません。限りがある命を生きているという気持ちを常に持つことができれば、日常の些細なことにも感謝できるし、幸せを感じるができます。

がんになってしまったことは、変えられません。しかし、自分の今までの人生を見直すよいチャンスと捉えることは可能です。もちろん、どんな治療を選択するべきかで、とても悩むし、いざ治療が始まれば、それはとても辛いし、今後どうなるのか不安でたまらなくなる時もあります。そんな時は、同じ体験をしている病院の患者・家族と気持ちを分かち合ったりすることで、苦しいのは自分ひとりじゃない、と分かり、勇気が湧いてきます。病院という非日常的な空間の中で、少しでも患者・家族の方々の支援ができるよう、これからも、職員一同、頑張っていきたいと考えています。

# 臨床の現場から

## ICU の役割

集中治療部長 今井 美絵

ICUとは何のことでしょうか。ICUとは Intensive Care Unitの頭文字をとった略語で、日本語にすると集中治療室のことです。千葉県がんセンターには、ベッド数9床のICUが一階の手術室に隣接してあります。

もともとICUとは、呼吸・循環・代謝などの主要臓器の急性機能不全の患者を収容し、総合的・集中的に治療・看護を行うことにより、その効果を期待する部門と定義されています。千葉県がんセンターの場合は、がんの患者さんの治療が中心ですので、入室患者はがんの手術直後の患者さんが大部分を占めます。化学療法を受けて全身状態が一時的に悪化してしまった患者さんが軽快するまで治療を受けることもあります。

手術直後は、手術そのものの体へのダメージや全身麻酔の影響で呼吸や循環状態が不安定になっています。ICUでは、刻一刻と変化する病気の状態を把握し、それに対して、できるだけ早く最良の治療を行っていきます。そのため、生体モニターといって、循環・呼吸・代謝の様子を観察するための機械を体につけさせていただくことが多くなります。ずっと着けっぱなしにしていないといけないモニターの代表的なものに、心電図、動

脈酸素飽和度測定器（指先にキャップをつけて体内への酸素の取り込みを測定します）、観血的動脈圧測定計（動脈の中に細いチューブを入れて血圧を測定します）、呼気中二酸化炭素測定器（主に人工呼吸中に口元から細いチューブで呼気を採取します）があります。こういった機械はときに煩わしく、体を束縛されている不快な思いをされることがあると思いますが、一方で、体の変化をいち早く発見できるため、酸素不足や低血圧といった合併症の早期発見早期治療に有用なのです。そして、モニター下では手術の傷に対する痛みどめを安全に行え、早期リハビリへの橋渡しがスムーズになるという利点もあります。

千葉県がんセンターでは経験豊かなICUスタッフが重症な患者さんのストレスを理解し、最もつらい時期を乗り越えるお手伝いをしています。



## 「県民公開セミナー」のお知らせ

毎年の恒例行事である県民公開セミナーについてお知らせします。

今年は「がん診療に役立つ放射線」というテーマで開催予定です。

今回はがんセンターに所属する4人の医師・看護師がプレゼンターとなり、前半は「放射線治療の基礎知識」・「技術革新に支えられた脳腫瘍治療の進歩」・「がん診療における核医学の役割」・「放射線治療の実際と日常生活のポイント」という講演をそれぞれ行い、後半は参加者の皆様からの質問を集め、プレゼンターを中心としたディスカッションを行います。

当日は、がん相談支援センターによる出張相談、県内の患者会によるブース展示も予定されており、がん患者さん・ご家族のみならずより多くの皆様が有意義な時間をお過ごしできるかと思っておりますので、是非ともご参加いただけますようよろしくお願い致します。

日時：平成26年10月19日（日）13:00～15:30

場所：京葉銀行プラザ6F 会議室

定員：300名（入場無料）



## 地域医療連携室だより

### がん検診の精密検査受け入れについて

「がん」は千葉県の死因の第1位になっています。がんによる死亡者を減らすためには、がん検診による早期発見、早期治療が重要となります。

がん検診は各自治体が行っています。たとえば千葉市は個別検診と集団検診を行っています。個別検診では、市から委託された診療所等で検診を受け、結果が「要精密検査」と判定された場合に「精密検査依頼書」が手渡されます。集団検診で「要精密検査」と判定された場合は後日、市から「精密検査結果連絡票」が送られてきます。

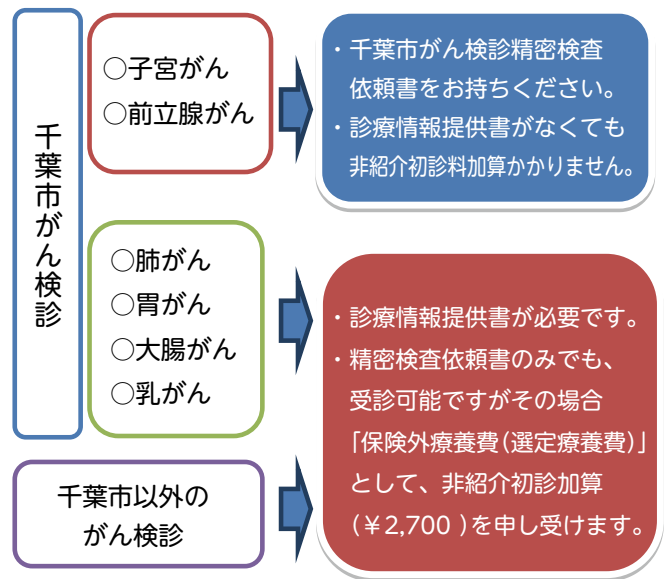
もし、検診で「要精密検査」と判定されたとしても、がんであることが確定したわけではありません。その次に精密検査を受けて初めて診断がつき、治療の必要性が決まります。そのため、「要精密検査」と判定された方は、精密検査医療機関を必ず受診しましょう。

千葉県がんセンターは、千葉市のがん検診のうち、子宮がん検診と前立腺がん検診について精密検査協力医療機関になっています。精密検査を行い、その結果、がんと診断された場合には、速やかに治療を開始できるよう

に診療にあたっています。また、がんでなかった場合は、定期的な検診を勧める、または、かかりつけ医に定期検査を依頼しています。

なお、千葉市の子宮がん・前立腺がん以外の検診や千葉市以外で受けたがん検診について、精密検査を当センターでご希望なされる場合は紹介状が必要となります。受診の際にお持ち頂く書類が異なりますのでご注意ください。

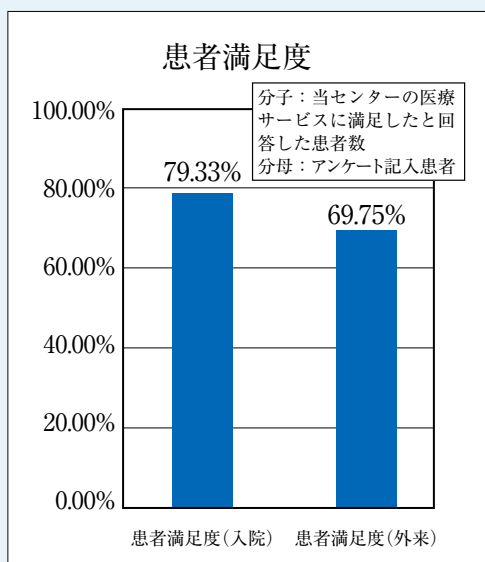
#### がん検診精密検査の種類と必要書類



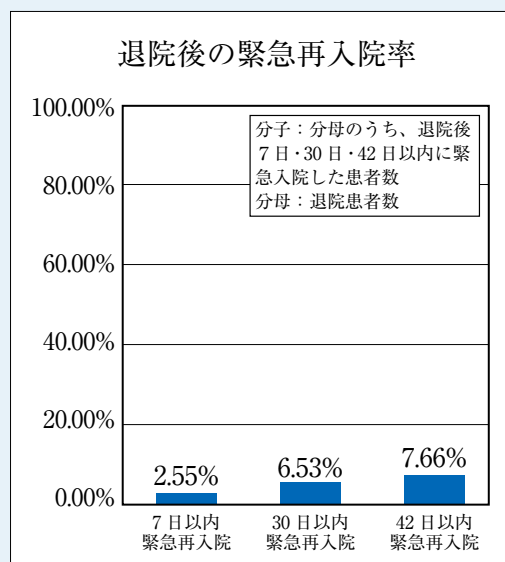
## 診療実績

### 医療の質指標 (2012年度)

診療情報管理室



千葉県がんセンターでは、自院の医療レベルを向上させる目的で、医療の質を評価し、指標にしています。患者満足度、退院後の緊急再入院率など、36の指標をホームページで公表しています。



## 初診担当医表

2014年5月1日現在

### 【予約受付時間】

月曜日～金曜日(祝祭日、年末年始を除く)

9時～17時

診療科	月	火	水	木	金
消化器外科	池田 篤 外岡 亨 有光 秀仁	山本 宏 鍋谷 圭宏 早田 浩明 外岡 亨	滝口 伸浩 池田 篤 貝沼 修 柳橋 浩男	永田 松夫 鍋谷 圭宏 滝口 伸浩	山本 宏 貝沼 修 早田 浩明 齋藤 洋茂
消化器内科	山口 武人 傳田 忠道 廣中 秀一 鈴木 拓人	傳田 忠道 原 太郎 須藤 研太郎	山口 武人 傳田 忠道 廣中 秀一 中村 和貴	傳田 忠道 原 太郎 廣中 秀一	中村 和貴 須藤研太郎 相馬 寧 三梨 桂子
呼吸器外科	飯笹 俊彦		飯笹 俊彦		飯笹 俊彦
呼吸器内科	芦沼 宏典	板倉 明司 新行内雅斗 芦沼 宏典	吉田 泰司	板倉 明司 新行内雅斗 吉田 泰司	芦沼 宏典
乳腺外科	山本 尚人 中川 綾子	山本 尚人 大久保嘉之	中村 力也 中川 綾子	大久保嘉之	中村 力也 中川 綾子
形成外科			徳元 秀樹	秋田 新介	
婦人科	(担当医)	田中 尚武	(担当医)	田中 尚武	(担当医)
泌尿器科	小丸 淳 佐藤 陽介	植田 健	高木 公暁	小林 将行 佐藤 陽介	深沢 賢 滑川 剛史
腫瘍血液内科	熊谷 匡也 伊勢美樹子	辻村 秀樹 菅原 武明 山田 修平	熊谷 匡也 菅原 武明	熊谷 匡也 伊勢美樹子	熊谷 匡也 辻村 秀樹
脳神経外科	井内 俊彦	(担当医)	井内 俊彦 堺田 司	(担当医)	堺田 司
頭頸科	佐々木慶太 佐々原 剛 櫻井 利興	佐々木慶太 佐々原 剛 櫻井 利興		佐々木慶太 佐々原 剛 櫻井 利興	
整形外科	石井 猛 米本 司	石井 猛 岩田慎太郎		石井 猛	米本 司 岩田慎太郎 鴨田 博人
緩和医療科	渡邊 敏	渡邊 敏		渡邊 敏	渡邊 敏
精神腫瘍科	秋月 伸哉	秋月 伸哉		秋月 伸哉	秋月 伸哉
核医学診療部		戸川 貴史	久山 順平	久山 順平	戸川 貴史

### 【診療予約のご案内】

予約電話 043-264-5431 (代表番号)

地域医療連携室 予約担当

\*当センターは予約制となっております。受診される場合は、電話で予約をおとり下さい。

\*初めて受診なさる場合は、かかりつけ医など医療機関からの紹介状をお持ち下さい。

# 研究の現場から

## 臨床ゲノム解析 (Clinical Genomics) への提言：ベンチからベッドサイドへ

研究所 横井左奈、大平美紀、永瀬浩喜

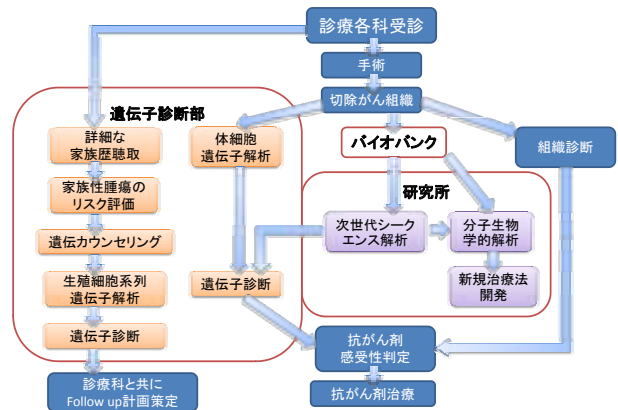
**サ** イエンス誌が年初に2014年に起こる医学の革命としてClinical Genomicsを予測しました。技術革新により超並列シーケンシング (=次世代シーケンス) が安価で高速に遺伝情報を提供するようになったことで、海外の一部の医療機関ではがん組織に生じた遺伝子変化の網羅的解読が臨床検査として実施され始めており、個々の患者を分子レベルで捉えた結果が診断や治療薬の選択、予後予測に活用されています。これは、血液検査やCTなどのように患者の基本情報の一つとしてあらゆる遺伝子の情報をあらかじめ取得しておき、既知のマーカー遺伝子は即時に診療に活用し、他の遺伝情報は診療情報と随時照合して新規マーカーの迅速な同定に役立てる試みです。

当院でも、診療部門と研究所が連携し科学研究費に基づいた次世代シーケンサーによる患者検体の解析が始まっています。検体としては、臨床病理部で保管されるホルマリン固定標本に加え、1996年よりセンター横断的に始まったバイオバンクに凍結保存されている年間約800のがん組織 (累計保存検体数：約11200) と年間約

3500本の血清、研究所の健常者コホートとして市原市民6000人および柏・我孫子市民7000人の血液検体があります。昨年度は約650検体が、遺伝子診断と研究に活用されています。がん組織の遺伝子解析のみならず、がん家系 (家族性腫瘍) の体質に関わる遺伝子診断も開始しました。今年3月から遺伝子診断部に着任した認定遺伝カウンセラーと共に、主に若年発症・多発がんの患者さんに対し五世代にわたる詳細な家族歴聴取を行い、本人の二次がんや家族のがんの発症について遺伝的リスク評価をしています。

更に研究所では、動物モデル、抗がん剤抵抗性、既存薬の適応拡大、遺伝子配列特異的な創薬、千葉県がん登録などの研究が進められており、clinical genomicsの実現を支援しています。

### 遺伝子を活用した診療



## 第3回心と体総合支援センターのシンポジウム開催報告



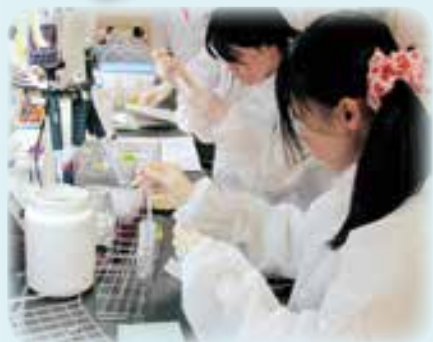
平成26年1月18日に「がんになっても働きたい・働きたい」をテーマにがんセンター事務研修棟で開催いたしました。今回のセミナーは就業支援に焦点を当てた内容で、中川原病院長、小田病院局長から挨拶があった後、公益財団法人日本対がん協会会長の垣添忠生先生から基調講演「がんになっても働ける社会の実現」についてお話がありました。がん検診の重要性、がん患者さんが、がんになる以前の生活を気負うことなく送れる社会の実現を目指し、政策内容や私達がなすべき事についてのお話でした。

その後、シンポジウムに移り、1題目はNPO法人HOPEプロジェクトの桜井なおみさんが「これからのがん医療への期待」として、ご自身のがん経験を通し現在行っている、患者・家族の支援活動についてのお話。2題目は櫻井謙二商会社長の櫻井公恵さんが「がんになっても働きたいだけ働いてください」として、会社経営者の立場でがん経験者を継続して雇用する為に職場の協力体制をどのように構築したのかのお話。3題目はSTAND UP!!<若年性がん患者団体>熊耳宏介さんから、学生時代にがんを経験し学生時代や就職活動をどのように立ち向かったかのお話。4題目は当センター植田医療局長から「がん治療専門医ががんになったとき」としてがんを経験した医師がどのように病気と向き合い治療を受けて、患者としての立場で感じた事についてのお話がありました。参加者は104名 (院外37名、院内67名) という結果でした。就業支援に関するテーマは、現在焦点が向けられている話題で、どの方からもパワーを感じられる非常に興味深いお話しで、参加者からの感想も好評でしたが、広報が不足していたのか院外からの参加者が少なかったのは残念でした。



今年も

## 「夏休みサイエンススクール」の季節がやってきます

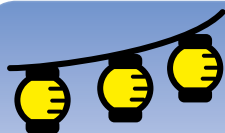


県内の中学、高校の生徒さんたちが長い夏休みを満喫している季節に、千葉県がんセンターの「夏休みサイエンススクール」が開校します。このスクールは、医学生物学の研究分野に興味を持っているけれど、自分の将来を決めかねている、あるいはこれから決めようと思っている県内の中学、高校の生徒さんたちに、医学生物学の研究の世界および実際の研究者の日常生活を知ってもらうために、千葉県教育庁のご協力を得て実施されています（日帰りでの三日間のコースです。本年度は、8月6日～8月8日の実施です）。

このスクールでは、千葉県がんセンター病院および研究所で働く職員や大学院生の方々が、生徒さんたちの「先生」として分子生物学の実験のイロハ、ヒトの体の仕組み、そして「がん」と「遺伝子」のつながりなどについて教えてくれます。嬉しいことに、この「夏休みサイエンススクール」の卒業生（OB、OG）の中に、実際に医師や看護師そして医学生物学の研究者の道に入った方々がいるんですよ。私たちは生徒さんたちの「先生」役をするわけですが、本当のことを言えば、生徒さんたちの好奇心旺盛な瞳を見ると、研究者を目指していた自らの若い頃を思い出して、もっと頑張らなければって思うわけです。私たちの方が「元気」をもらっているんですよ。

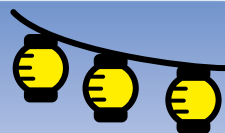
この「夏休みサイエンススクール」の定員は24名、県内在住の中高生が対象となっています。参加希望の方々がおられましたら、千葉県教育庁教育振興部生涯学習課（043-223-4069）、あるいは千葉県がんセンター研究所（043-264-5431、内線 8523）までお問い合わせください。今年の夏休み、皆様方とお会いできることを楽しみにしております。

研究所 DNA 損傷シグナル研究室 尾崎 俊文



今年も

## 夏祭りを開催します



がんセンターのふれあい広場委員会では、年間を通じて患者さんやご家族の方に参加していただけるイベントを、季節毎に企画・運営しています。

春の紙ヒコーキ大会に続き、今年度は8月1日に夏祭りを行います。夏祭りは、養護学校・地元ボランティアの方々の協力を受け、病院スタッフによる手作りのお祭りです。出店や盆踊りなど、夏の風情を感じていただけるように企画してまいります。どうぞご参加ください。



ご案内の	
	交通
	案
	内

**JR千葉駅から** 所要時間:約25分

千葉中央バス: 菅田駅、鎌取駅、千葉リハビリセンター、大宮団地(星久喜経由)行乗車・千葉県がんセンター前下車

**JR鎌取駅から** 所要時間:約13分

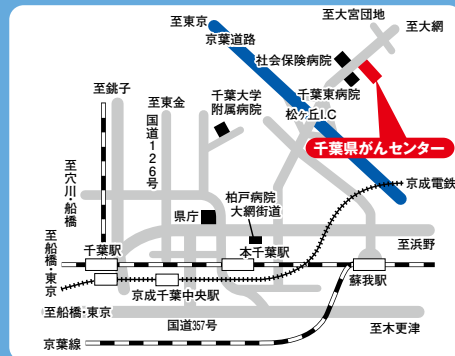
千葉中央バス: 千葉駅・蘇我駅行乗車・千葉県がんセンター前下車

**JR蘇我駅から** 所要時間:約16分

千葉中央バス: 鎌取駅行乗車・千葉県がんセンター前下車

**松ヶ丘I.Cから**

大網街道を大網へ向かって約2km右側



**千葉県がんセンター**  
〒260-8717 千葉市中央区仁戸名町666-2  
TEL.043-264-5431 FAX.043-262-8680  
<http://www.chiba-cc.jp/>